



この広報誌の発行に
一部共同募金配分金
を利用しています。

特集
2・4

“社会的孤立”と向き合い、生活課題の解決に取り組む
第33回近畿地域福祉学会 和歌山大会
(兼:令和3年度和歌山県地域福祉推進フォーラム)



④ ・シルバー美術展開催のご案内

⑤ ・苦情解決のツボ

・令和3年和歌山県知事表彰

⑥ ・地域福祉活動紹介 岩出市社会福祉協議会

・赤い羽根共同募金

⑦ ・情報案内コーナー

⑧ ・ トレジャー

・福祉・介護・保育のしごとフェア及び

福祉・介護・保育の就職フェアわかやま開催のご案内

お知らせ

「福祉わかやま」は令和4年から2月号・3月号を合併し、年11回の発行となりました。次回の発行は、4月号(4月1日発行)の予定です。

組む」

去る12月18日、ホテルグランヴィア和歌山を会場に、第33回近畿地域福祉学会和歌山大会が開催されました。本県が当番県として開催した平成21年度大会・27年度大会に引き続き「社会的孤立から生じる生活課題への取組」をテーマとし、コロナ禍の今、地域共生社会の実現に向けて私たち地域福祉関係者は「社会的孤立」にどう向き合い、どのような実践ができるのか、4名のパネリストによる実践報告をもとにパネルディスカッションが行われ、今後の展望と可能性を探る機会となりました。

限界集落のシェアハウス ～山奥ニートの不思議な日々～



いし い あらた
石井 新氏(田辺市)
きょうせいしゃ
NPO法人共生舎

競争社会ではなく共生社会

私たちは自称「山奥ニート」です。私自身は名古屋市に住んでいましたが、大学にも行かず25歳のときからひきこもり状態になり、アルバイトも一週間と続きませんでした。「自分に居場所はないのだろうか…」社会との唯一の接点がインターネットという生活のなか、和歌山の山奥でニートやひきこもりの人を集めて共同生活をしているNPOがあると知りました。「これ以上悪くなることはないだろう」という思いで迷いなく連絡。でも、実際に来てみるとスマホも通じない、人口は5人しかいない、とんでもない限界集落だったんです。

当時のNPO代表はこう言いました。「競争社会ではなく共生社会を創ろう。」僕は子どものころから争いごとが苦手だったので、やっと同じ考えの人に会った、と思いました。

2014年からニート2人での生活が始まり、今は廃校舎を活用して10人の共同生活です。狩猟採集や山菜採り、魚釣りや農作業等をしていると、ニートも多少はたくましくなります。地域の人とYouTubeがあれば、大体のことは誰かが教えてくれます。ここでは賃金労働がすべてではありません。ニートでも、何とか助け合って生きていけるものです。

生活のルールとして、必ず1人あたり月2万円を出し合い、光熱費や食費、修繕費等の共通経費に充当します。嗜好品や税金等は個人負担。山奥だからと言って仕事がないわけではなく、農作業や草刈り、獣害駆除等のほか、最近ではリモート(オンライン)で働く仲間もいます。

集落の人には「みんなの孫」のような感覚で甘える(頼る)ようにし、可愛がられています(笑)。住み始めてから8年が経ち、自分に後輩が出来て思うのは、「頼られるのは結構うれしい」ということです。その意味では、地域に頼るのも孝行で、頼った分、また新しい人に親切にしたいと考えています。

ここで暮らすうちに、別の場所で生活したくなったら「社会復帰」。気に入ってずっと住むなら「地域振興」。避難所にしてもいいし、定住してもいい。どちらでもいいのが、共生舎の特異性です。

実は、うちの仲間が夫婦となり、3週間前に子どもが生まれました。仲間と集落の人と、皆で0歳児を育てていくというこれからの生活も、とても楽しみにしています。

きんぷ

人生の質をより良くするために ～錦富さわやかクラブの活動を中心に～



ちゅうま あさ か
中馬明日香氏(串本町)
社会福祉法人串本福祉会

あなたの問題、私の問題ではなく、「私たちの問題」として

串本福祉会は、串本町二色地区で特別養護老人ホーム等を経営する社会福祉法人で、今年、創立35周年を迎えました。町人口は約15,000人ですが、進学や就職で地元を離れる現役世代が多く、高齢化率は約46%に達し、特に高齢者にとっては人や社会とつながりたくてもつながれないという生活課題が深刻です。社会福祉法人制度改革により社会福祉法人の地域貢献が責務とされましたが、義務感でやらなければならない地域貢献(自己犠牲)ではなく、社会福祉法人で働く職員として純粋に地域の役に立ちたい、貢献したいという気持ちを持った職員が集まり、生まれたのが「錦富さわやかクラブ」です。

このクラブは、串本福祉会と地域の高齢者、現役世代、そして様々な地域資源をつなぐことで、自助・互助を大切にしたい田舎ならではの新しいコミュニティづくりを目指すもので、月2回(第1・第3土曜日の午後)、廃校となった小学校の体育館に地域住民が集まり、生活課題について意見交換し合う場としています。クラブの名前も地域の皆さんに考えていただき、二色(錦)地区と高富地区の頭文字から、地域と地域をつなぐ素敵な名前をつけていただきました。

クラブ前半の趣味活動では、みんなで「網かごづくり」をして作品を道の駅等で販売し、活動財源に充てています。網かごを家で作ってくれる参加者もあり、高齢者の「役割づくり」や「居場所づくり」につながる活動になりました。

後半の意見交換では、日々の心配ごとや地域の課題などを話し合います。「なかなか買い物に行けない」「自分で見て選んで買いたい」という参加者の声から、町内の商店やコンビニに声をかけて、クラブの日に体育館内で行う「移動販売」も実現しました。

新型コロナウイルス感染症の影響でこのような活動を休止せざるを得なくなり、数年かけて培ってきた地域住民のつながりが薄れることを危惧しましたが、「コロナ禍だからこそ、何かできることを」と職員に声をかけ、現在も職員間で網かごづくりを継続したり、台風や大雨の際には安否確認をかねて独居高齢者宅を見回ったりという活動を継続しています。これからも地域住民が安心して暮らしていけるように、そして、一人ひとりの人生の質がより良くなるように、取組を継続していきたいと思います。

寄り添い見守る地域づくり ～目配り・気配り・心配り～



やまもと ゆきのり
山本 幸則氏
(かつらぎ町)
社会福祉法人
かつらぎ町社会福祉協議会

制度の谷間にある人たちに寄り添い、見守る

かつらぎ町社協では、“制度の谷間にある地域住民の生活問題への対応・支援に重きを置く”ことを大切にしています。本日のテーマである「“社会的孤立”と向き合い、生活課題の解決に取り組む」ことは、社協が取り組むべきことと考えています。こういった制度の谷間にある人、社会から孤立している人には、寄り添い、見守りながらサポートしていくことが大事。職員だけでできるものではなく、地域の関係者、地域住民を含めて関わっていくことが必要です。

社会的孤立とは、社会や人とつながりがいない状態。地域には、つながれない人、つながらない人、つながろうとしない(できない)人など様々な方がいます。共通して言えるのは、誰もが好んで孤立している訳ではないということ。孤立しているのには人それぞれに理由がある。だからこそ、それぞれに寄り添い、見守りながら地域をつくっていくことが大事。大切にしていることの

一つ目は、自分の居場所で自分らしく生活ができること。気づいて、つないで、見守る中で、このことを確認していくことが大事です。二つ目は、自助、互助、共助、公助、それぞれに役割があること。その中でも、社協としては本人の意志や力を尊重するために“自助”を大事にして、その人がその人らしく生活できるためには、その人に何ができるか、また、できないところを身近な方々、地域、公が支え合っていく仕組みを考えていく。そこをコーディネートするのが社協の役割であると考えています。

それらを踏まえての取組の一つが、つながれないもどかしさを持っている方々、つながりたいと思っている方々をつなげる方法として考えた「寄り添いサロン」です。集まるだけではなく、生活力を高める取組ができないか考え、食の支援に取り組んできました。サンドイッチづくり等、回数を重ねるうちに「家でもやったよ」という一言が出てくるなど、変化が見られています。家にいるときには同じ服装ばかりだった人が、外出することで服装を考えたり、仲間と話をしたりする中で「仲間がいる」という実感も湧いてきているように感じます。地域で不安を抱えた方は他にもいます。行政、社協、地域の方、本人、それぞれができることを考え、ともに行動していきたいと考えています。

福祉の担い手として大学生にできること～その意義と課題、可能性～



うえの やま ゆうじ
上野山裕士氏
せつなんだいがく
摂南大学
教育イノベーションセンター
講師
(兼:コーディネーター)

大学生の存在が、地域に様々な変革を創出する

「地域の担い手不足」が深刻化しています。少子高齢化、人口流出、現役世代の地域参加が十分ではないことが要因です。和歌山県では、県外大学進学率が非常に高く、新たに設置される大学も和歌山市内に集中しているため、和歌山市以外には若者が少ない状況です。地域共生社会は「支え手側と受け手側に分かれるのではなく、地域のあらゆる住民が役割を持ち、支え合いながら自分らしく活躍できる」という考え方。地域福祉の担い手の裾野を広げていくことが重要な要素です。

また、地域と大学の連携に期待が高まっています。一点目は「地域と大学との協働性」。これまでは大学の教員や大学生が地域で調査をしたり、委員会の中で指導・助言を行ったり、どちらかといえば一方向的な関わり方が多かったのですが、近年では、一緒に考え、活動する協働性がみられます。二点目は「協働主体として想定される大学生」。今までは、大学院生やゼミに

所属している3・4年生など大学生の中でも専門性の高い人たちが協働主体として想定されていましたが、今はどちらかというと1・2年生、ある意味では未熟な学生たちが地域の人たちと協働することが多くなってきています。

その証拠として、多くの大学でPBL(プログラム・ベースド・ラーニング)型プロジェクトが実施されています。

地域と学生との協働的实践を継続することで、新たなつながりの創出、多様なつながりへの寄与など、副次的な成果が見られています。例えば、地域に積極的に関わっていなかった主体が「大学生もがんばっているから自分も」と参加してくれたり、学生が間に入ることで行政と地域の方々との対話が活発化するなどの変化がみられています。活動を継続し、「地域が求めること」に真摯に取り組むことで、地域からの信頼を得られたのだと考えています。

大学生には、若さ、柔軟な発想、体力、フットワーク等の強みがある一方、担い手として日常的に関われる訳ではなく、その地域に住んでいない学生が大半であるため、地域の実情を理解することにも限界があります。地域福祉の担い手の「主役」として大学生ができることは少ないかもしれませんが、大学生の存在、活動が契機となり、地域に様々な変革を創出する可能性があるともいえます。学生の「得意」を発揮できる場をつくることも重要です。

全体統括コメント



おの たつや
小野 達也氏
(コメンテーター)

もはやまがくいんがく
桃山学院大学 社会学部
社会福祉学科 教授

それぞれの地域で、何をを目指すのかー

和歌山県では、過去の大会でも「社会的孤立」をテーマにされましたが、「社会的孤立」の語られ方や捉え方が随分変わってきたと実感しています。これまでは、社会的孤立って何だろう、どう対応していけばいいのだろうという感じだったものが、今日の報告では、その中にある違う側面や可能性が見えてきたように思います。

共生舎の石井さんは、“当事者(ニート)”という立場でありながらも、NPOを介した、限界集落という“地域”との新たなつながりと希望を紹介してくれました。串本福祉会の中馬さんは、社会福祉法人としての社会性の高さ、職員間で意見をぶつけ合いながら地域のことを考えるという、これからの社会福祉法人のあり方を語ってくれました。かつらぎ町社協の山本さんは、個から地域へのアプローチと、地域づくりから個へのアプローチの両面をしっかりと意識しながら取り組む、地域共生社会に向けた社協の姿を見せてくれました。上野山先生の報告では、大学生が、完成形ではないにしろ、学びながら地域を支える新たな力になりうるんだということを示唆いただきました。

地域では本当に様々な問題が生じています。地域福祉業界という言葉があるとすれば、今は非常に繁盛している状態なのかもしれませんが、地域福祉は決してオールマイティではありません。地域福祉に関わる者として目の前の課題解決に取り組むことはもちろん、その取組が何につながるのか。また、重層的支援体制整備事業のような新たな施策は何を目指していくのかということを、地域住民、当事者、様々な担い手や実践者あるいは研究者とともに、それぞれの地域でよく考えてほしいと思います。

お問合せ先 総務企画部 企画班 TEL:073-435-5224

シルバー美術展

[兼:第34回全国健康福祉祭神奈川・横浜・川崎・相模原大会(ねんりんピックかながわ2022)出品作品選考会]を開催します。

『ねんりんピック』の愛称で親しまれている『全国健康福祉祭』は、60歳以上の高齢者を中心とするスポーツ、文化、福祉の総合的な祭典です。

卓球、テニス、剣道、囲碁、将棋などの各交流大会や音楽文化祭、シンポジウム、健康福祉機器展、美術展、など各種イベントが毎年、全国各地で開催されています。

今年、神奈川県において11月12日～15日にかけて開催される第34回全国健康福祉祭(ねんりんピックかながわ2022)の美術展に出展する県代表作品を審査会において決定します。

紀の国いきいき健康長寿祭シルバー美術展(兼:ねんりんピックかながわ2022出品作品選考会)は、アマチュアの方による作品展で、高齢者が日々の生活に張り合いを持ち、高齢者の生きがいづくりと自らの生きがいを高めるために創作した作品の発表の場として、毎年開催しています。

日本画・洋画・彫刻・工芸・写真・書の6部門ごとに展示します。

また、審査会を開催し、部門ごとに優秀な作品を表彰します。

紀の国いきいき健康長寿祭 シルバー美術展

会期・会場 2月18日(金)～21日(月) 10:00～17:00

※2月17日(木)は、審査会を開催します。

和歌山ビッグ愛 1階展示ホール(和歌山市手平2-1-2)



昨年のシルバー美術展の様子

県社協“発”

～県社会福祉協議会から事業の案内や報告等を発信します！～

お問合せ先 地域福祉部 健康いきがい班 TEL073-435-5214



令和3年度福祉サービス苦情解決研修会(紀北会場の部)を開催しました。

去る12月2日、和歌山ビッグ愛において、研修会を開催し、県内福祉施設の苦情解決責任者など60名の方にご参加をいただきました。

今回は、小さな気付きから、大きな事故やクレームを減らすことができるように普段からの心構えを念頭に置き、一般社団法人ソーシャルサポート会 代表理事 川口朋寿氏を講師に招き「政策課題のハラスメント対策」と「現場対応として出来る事」と題して講義をいただきました。



研修会会場

苦情についての基本的な考え方から始まり、早期に対応する大切さ、解決の難しさについて、自身の経験をもとにした多くの事例を参考に挙げて説明をいただきました。

また、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント、カスタマーハラスメント、ヘビークレームといった昨今事業経営者を悩ませている問題については、福祉職場におけるクレームの特徴を踏まえたうえで、わかりやすく解説していただきました。

さらに、「担当者だけではなく、職場全体で苦情対応にあたるのが、職員一人ひとりの心身を守ることに繋がり、利用者にとっても満足度の高い、より良い解決に繋がっていく。」と事業所における苦

講義の合間には、コロナ禍により実施できないグループワークの代わりに、事例検討(個人ワーク)を行い、受講者の方々から日々の業務やこれまでの経験に基づいた視点で、様々な意見を出し合っていたいただきました。

受講者からは、「現場(通所・入所・訪問)での例を出して頂き、本当によく分かった。理解しやすかった。」「よかった。何点か現場で使える対応方法を教えていただいた。」「クレーム対応の内容がわかりやすかった。」「また参加したい。」と概ねご好評をいただきました。

一方で、「解決困難な事例をみんなで話し合って、どう解決に導くかといったグループワークをしたい。」「各事業所での苦情解決に係った活動報告や事例発表を聞きたい。」といった意見も挙がり、こ

れらは次年度以降の研修のテーマとして検討していきたいと思っています。

福祉サービスの利用にあたって生じる苦情については、事業者は自主的に解決にあたるのが社会福祉法に定められています。

県福祉サービス運営適正化委員会では、事業所におけるサービスの質の向上及び事業者段階における苦情解決の体制整備を目的に事業を進めてまいります。



研修会資料

※お詫び

11月30日にビッグ・ユー(田辺市)にて開催予定でした令和3年度福祉サービス苦情解決研修会(紀南会場の部)については、当日の阪和道の事故の影響に伴い、主催者の判断により中止いたしました。ご参加予定であった方々には大変ご迷惑をお掛けいたしました。

お問合せ先

県福祉サービス運営適正化委員会
TEL:073-435-5527

令和3年 和歌山県知事表彰

【ボランティア団体】…特定非営利活動法人和歌山盲ろう者友の会 様

去る12月20日、アバローム紀の国(和歌山市)に於いて令和3年和歌山県知事表彰式が執り行われました。

和歌山県知事表彰は、公共の福祉増進に功労のあった個人・団体を表彰し、功績をたたえることを目的とされています。

「ボランティア功労」として、盲ろう者の自立と社会参加を目的に、盲ろう者相互の交流、通訳・介助者派遣、支援専門職の拡充や、地域福祉の向上に多大な貢献をされた特定非営利活動法人和歌山盲ろう者友の会様が受賞されました。





ひとづくり まちづくり ゆめづくり

地域住民による支え合いの仕組みづくり(社会福祉法人岩出市社会福祉協議会)

岩出市社会福祉協議会(以下「岩出市社協」という。)では、住民同士が話し合い、支え合いの仕組みづくりに取り組んでいます。

この取組を担当する岩出市社協 地域福祉推進班長の湯浅敦之さんと主事 宮地美幸さんにお話を伺いました。

地域の課題は「私たちの課題」

県内で最も高齢化率が低い岩出市は、県外からの転入者も多く、住民同士のつながりも少ない地域。住民の方々に福祉に関心を持ってもらい、自分たちのまちの福祉のことを考えてもらうため、平成17年度から「地域の福祉講座」を開始しました。

この講座の参加者を対象に「地域福祉座談会」を開催。住民同士が話し合い、地域の課題を「私」ではなく「私たちの課題」として考えることで、住民同士のつながりが生まれてきました。

さらに、座談会の参加者から「自分たちが課題解決に向けて取り組みたい」という声があがる中、住民自身が考え、実践する仕組みとして「地域福祉協議会」が組織されました。

地域への参加を支援

地域福祉協議会の「いきがい部会」では、互いが支え合い、住み慣れた場所です心安心して暮らし続ける地域の実現に向けて活動しています。その活動の一つである「ほほえみ会」は、地域のサロン活動の普及啓発のため広域的に実施している活動です。その「ほほえみ会」を通じて参加支援の事例があります。



住民が主体となって活動(令和元年撮影)

母と二人暮らしをしていたAさん。母の死後、外出できない状況が続いていました。心配した近所の方が障害者支援事業所に連絡。併設する地域活動支援センターから岩出市社協に相談があり、Aさん宅を訪問し、「ほほえみ会」にお誘いしたところ、参加いただくことができました。回を重ねるごとに少しずつスタッフや他の参加者とも会話し、表情も明るくなり、今では外出できるようになりました。

同じ地域で暮らす住民として

「障害部会」では、障害の有無にかかわらず誰もが安心して暮らせる地域の実現に向けて活動しています。その取組の一つが、グループホームと近隣をつなぐ活動です。部会のメンバーが毎月グループホームを訪問して関係を築くところから始め、近隣の方にも参加を呼びかけ「餅つき交流会」を開催するようになりました。部会メンバー、グループホーム関係者のほか、相談支援機関、民生委員、近隣の方々が役割分担しながら交流を深めています。



「餅つき」を通じて交流(平成31年撮影)

活動を継続できるように

コロナ禍で活動内容を変更・中止せざるを得なくなっていますが、感染対策を徹底しながら話し合いの場を持ち続けています。地域に根差してきた支え合いの活動を継続できるようサポートしたいと考えています。

お問合せ先

社会福祉法人岩出市社会福祉協議会
〒649-6256 岩出市金池92
TEL: 0736-6313246



赤い羽根共同募金
ダイレクトメール募金への協力お願い

毎年10月1日から全国一斉に展開する赤い羽根共同募金運動。この度令和4年1月に県内企業・団体様宛にダイレクトメールで募金協力依頼をさせて頂いております。

新型コロナウイルスの影響により、地域での募金活動も制限されることが多く難しくなっており募金実績も大変厳しい状況となっております。

コロナ禍の中、福祉課題は一層複雑、多様化し支援を必要とされる方々への福祉活動にも影響が生じております。皆様におかれましては、困難を極める時代に地域のつながりを絶やさぬよう、企業の社会貢献活動の一環として赤い羽根共同募金にご支援いただければ幸いです。

和歌山の福祉のために遺贈や相続寄付を考えてみませんか

○遺贈とは

ご自身の財産の一部またはすべてを特定の個人や団体に贈与することを言います。遺言によるご意思を示すこととなります。

○相続寄付とは

遺産相続されたご遺族の方が、相続財産の一部またはすべてを寄付することを言います。相続税申告期限までに寄付された場合、税制上の優遇措置を受けられます。

詳しくは県共同募金会へお問合せください。

お問合せ先

社会福祉法人
和歌山県共同募金会

〒640-8319
和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ
和歌山ビッグ愛7階
TEL: 073-435-5231
FAX: 073-435-5232



赤い羽根 わかやま

メール
info@akaihane-wakayama.or.jp
HP
https://www.akaihane-wakayama.or.jp/

申込受付中 福祉人材キャリア形成支援研修

福祉職場における労務管理研修

開催日時／3月1日(火) 10:25～16:00

会場／和歌山ビッグ愛 受講申込期限／2月8日(火)(必着)

介護技術研修(応用編)

開催日時／3月9日(水) 10:25～16:00

会場／和歌山ビッグ愛 受講申込期限／2月16日(水)(必着)

※研修の受講には、受講料がかかります。※定員(先着)になり次第締め切ります。

※県社協会員は、会員価格で受講いただけます。

※詳細は県社協ホームページをご覧ください。直接お問合せください。

お問合せ先 県福祉人材センター「ハートワーク」(県社協内)

TEL:073-435-5210

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、中止になる場合があります。



はじめよう！ 福祉の仕事 介護未経験者向け 研修会・就職相談会

家庭でも
生かせる内容・
受講料無料

介護未経験者を対象とした入門的な研修会を開催します。介護者としての必要最低限の知識・技術が身に付く内容となっており、自らの健康維持や家族介護にも役立ちます。

研修会の最終日には、就職相談会を開催します。就職相談会への参加も可能です。

受講対象者／○県内の介護現場で就労を希望する方

○介護や介護の仕事に少しでも興味のある方

定員／会場10名程度(先着順)

会場・日時／【紀の川会場】

打田生涯学習センター 学習室1・2・3(研修会)、

視聴覚室1・2(就職相談会)

2月26日(土)・27日(日) 9:30～

※就職相談会は2月27日(日) 15:00～

●PR動画放映

●個別面談会(オンライン)

お申込み・お問合せ先 研修について 県介護普及センター TEL:0739-22-6589

就職相談会について 県福祉人材センター
「ハートワーク」(県社協内)

TEL:073-435-5211



※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更・中止になる場合があります。

和歌山県社会福祉協議会 賛助会員のご紹介

本会では、より多くの方々に社会福祉活動・地域福祉活動へのご支援とご理解をいただくため、「賛助会員制度」を設けています。いただいた会費は、本会の活動に活用させていただきます。本当にありがとうございました。

令和3年度に賛助会費を納入いただいた方々(33法人)

法人名	市町村名
株式会社フォーライフ	和歌山市
◎株式会社オークワ	和歌山市
和歌山高齢者生活協同組合	和歌山市
センゴクベンダー株式会社	和歌山市
株式会社野佐商店	和歌山市
中央コンピューター株式会社	大阪市
株式会社和通	和歌山市
株式会社介護ステーションオアシス	和歌山市
株式会社紀州商合印刷	和歌山市
医療法人三光会	和歌山市
株式会社ルミエール	和歌山市
紀北川上農業協同組合	橋本市
株式会社丸和	和歌山市
株式会社日本旅行 Tis和歌山支店	和歌山市
株式会社協和	海南市
株式会社大紀商工	海南市
新日本法規出版株式会社	大阪市
株式会社貴志	和歌山市
株式会社JTB 和歌山支店	和歌山市
株式会社なだいコーポレーション	紀の川市
有限会社トータルケアサービス	和歌山市
ノイエス株式会社	和歌山市
串本タクシー株式会社	串本町
医療法人晃和会	海南市
中和印刷紙器株式会社	和歌山市
一般財団法人和歌山社会経済研究所	和歌山市
医療法人彌栄会	岩出市
株式会社五大オーエー	田辺市
株式会社宮本スポーツ	和歌山市
株式会社大黒ヘルスケアサービス	和歌山市
株式会社稲葉	和歌山市
株式会社アベックス西日本 和歌山営業所	和歌山市
◎株式会社フーズファイル	和歌山市

(令和4年1月12日現在・順不同、敬称略、◎印は今年度新たに納入いただいた方々)

高齢者の生きがいづくり わかやま元気シニア生きがいバンク



豊富な知識や経験、資格や技能を持った高齢者がたくさん登録されています。地域でのお手伝い、イベントや学習会、学校行事などで活用してみませんか！

☐ 人材を探す ☐ 活動のご依頼
☐ バンクへの登録 **WEBで検索!**

わかやま元気シニア生きがいバンク

検索

お問合せ(土・日・祝日を除く、9時～17時まで)

わかやま元気シニア生きがいバンク
☎ 073-435-5214



地域の宝物見つけた!!



～「ふくし」は「ふだんのくらしのしあわせ」～

このコーナーでは地域のふくしを支える
トレジャー
る宝物(人・物・笑顔)を紹介します。

何事も 前向きに考える



いぎいき和歌山チーム
やまぞえ とし お
監督 山添 利男さん

今回は、山添利男さん(76歳)にお話を伺いました。

山添さんは、和歌山市内で、59歳以上の方のソフトボールチーム「いぎいき和歌山」に所属し、全国健康福祉祭(愛称ねんりんピック)に、選手として鹿児島大会、石川大会、熊本大会、栃木大会、また監督として長崎大会、富山大会、和歌山大会に参加されています。

「いぎいき和歌山」について

部員は、現在、30名。毎週日曜日に練習しています。グラウンドの確保が大変ですが、他のチームと取り合いにならないように気を配っています。練習は、怪我のないように、ストレッチ等に時間をかけます。部員をまとめるために、全員が納得してくれるよう説明することを心掛けています。若い頃からソフトボールをして、今も練習も率先してする姿を部員達が見てくれているのだと思います。12月と1月は、家族のために時間を使うことにしてシーズンオフ(練習はお休み)にしています。



2回の聖火リレー

1964年の東京オリンピックの和歌山県内の聖火ランナーとして第13走者で日赤前から県庁まで走りしました。その時は、屋根の上まで人が上るくらいたくさんの方々が見学してくれ、聖火ランナーに選ばれました。人生で2回も聖火ランナーをすることができ、とても光栄に思っています。



健康の秘訣は?

『何事も前向きに考えること』が一番だと思います。また、よく食べて、よく寝ること。夜は、9時過ぎには寝て、朝起きて家族とラジオ体操をしています。

定年後、剪定の講習会に参加し、その時の講師から声をかけていただき、今も剪定の仕事を月に数日しており、また近所の方々からも剪定を頼まれます。家庭菜園も健康のため、機械を使わずに土を耕し、野菜を育てています。

山添さんにとって「ねんりんピック」とは?

ねんりんピックは、高齢者のお祭りだと思っています。毎年、ねんりんピックに参加するため、予選会で勝ち抜いて出場することが目標です。今年のねんりんピックかながわ大会にも出場できるよう練習していききたいです。



「福祉・介護・保育のしごとフェア」

参加費無料

来場者プレゼントあり

「福祉・介護・保育の就職フェアわかやま」を開催します!



第2回 福祉・介護・保育のしごとフェア

日時 2月11日(金) 13:00~15:30

会場 田辺市民総合センター2階交流ホール(田辺市高雄1-23-1)

お申込み・お問合せ先

田辺市社会福祉協議会
紀南福祉人材バンク
TEL:0739-26-4918

HP QRコード
(特設サイト)
※1月27日
公開予定。



第3回 福祉・介護・保育の就職フェアわかやま

日時 3月5日(土) 13:00~16:00

会場 和歌山ビッグ愛1階 大ホール(和歌山市手平2-1-2)

お申込み・お問合せ先

県社会福祉協議会
県福祉人材センター
TEL:073-435-5211

HP QRコード
(特設サイト)
※2月1日
公開予定。



内容 ○個別面談(社会福祉施設等とWEBを活用) ○福祉人材センター相談コーナー ※詳細は本会HPを確認
対象 福祉分野への就職を希望される方々
その他 来場による参加の他、自宅等PCからWEBによる参加も可能です。 ※自宅参加の場合は事前申込必要。
※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、変更・中止になる場合があります。

新型コロナウイルス感染症予防のため、ご来場の際は
マスクの着用等について
ご協力をお願いします。

【テレビ和歌山まごころ基金】

株式会社テレビ和歌山 様

- 和歌山市立 和歌山高等学校 様
- NPO法人全世界空手道連盟 新極真会和歌山支部 様
- 一般社団法人 紀の国森社中 様

県域での社会福祉事業の進展に資するために、本会にご寄附いただきました。心から御礼申し上げます。



株式会社テレビ和歌山大越常務取締役(写真左)から目録が贈呈されました。

株式会社セブン-イレブン・ジャパン 様

株式会社セブン-イレブン・ジャパンと県、県社協による「社会福祉貢献活動寄贈品に関する協定」に基づく寄贈商品が、1月11日、橋本市に届きました。

寄贈された商品は、生活に困難を抱えた個人・世帯等の支援や地域福祉の推進に役立てるため、紀北ブロックの7社協を通じて配分及び活用させていただきます。ありがとうございました。



寄贈御礼

預託団体名